

「ふるさと春日井学」研究フォーラム

Forum for Furusato Kasugai Studies

「ふるさと春日井」地域活性化・まちづくりへの応援

メッセージ

会報

NO. 23

2015.1.23発行

編集責任：河地 清

Kawachi-k@mb.ccnw.ne.jp

第23回「ふるさと春日井学」研究フォーラム

テーマ『御嶽講と覚明霊神』

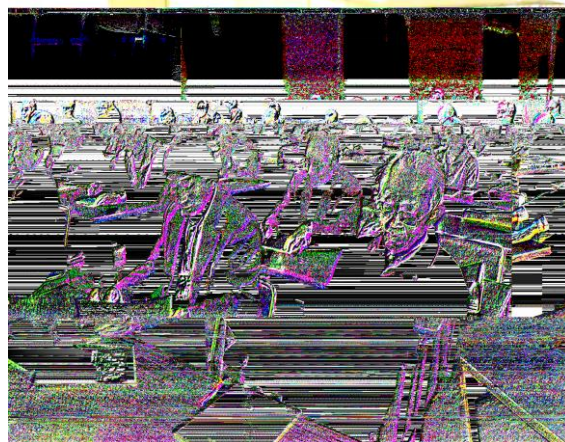
1月11日（日）市民活動支援センター（ささえ愛センター）において第23回「ふるさと春日井学」研究フォーラムをテーマ『御嶽講と覚明霊神』で開催しました。

講師は櫻井芳昭氏（春日井市文化財保護審議委員）でした。この日は「鏡開き」の日とあって、この話から始まった。昔は「松の内」（門松を飾ってる期間）が12月13日から1月20日までであったが、三代将軍徳川家光が4月20日に亡くなったことで、忌日（きじつ）を避けて幕府のある関東では1月11日に行くようになった。関西に徹底されず、15日になったという。徳川家の黒書院では、江戸にいる徳川家を集め「勝川具足」と呼ぶ鎧兜の前に鏡餅を供え儀式を行ったという。各藩に戻って武運長久を祝い、「具足開き」の1月11日にはそれを槌で割り食べたという。小牧長久手の戦い以来の無敗の縁起をかついで「勝川」をつけてきた。ふるさとのお宝として、「勝川具足」を宣伝する必要がある、まち起しのヒントになるのではと話された。参加者は40名でした。

講演のあと熱心に質疑応答がありました。



発表者：櫻井 芳昭 氏



会場風景

—発表要旨—

I. 御嶽信仰と御嶽講庶民登拝～覚明の功績

6 頁建て資料の覚明堂(牛山町皿屋敷の天神社境内)本尊の「覚明霊神像」を見せ、御嶽山中興の祖、覚明霊神は「国史辞典」にも載り、道風と並ぶ全国区の「春日井の偉人」だが、なんとなく影が薄れている。前半で覚明さんの生涯、後半に御嶽講の話をするので始められた。

(1)御嶽山は、他の霊山である立山・白山・富士山が「一般の人」が立ち入る山であるのと違って、「修験道の道場」となって、昔ながらの厳しい掟(百日精進潔斎=重潔斎を経た道者の一団による集団的登拝)を守ってきた。

それを覚明は一般の人に開放(軽潔斎での登拝許可)にした。

覚明霊神立像(牛山町)



(2)軽潔斎の庶民登拝を導いたのは寛政3年(1791)から。

覚明は黒沢口登山道、普覚は大滝登山道を改修し、軽精進による登拝可の制度にする運動を行った。誰でも先達の許可なしで登山できるようにした。(注)代官山村氏による軽精進登山の正式許可は寛政4年1月。

(3)明治時代以降、御嶽講の結成で全国的な広がりをもつ信仰の霊山となった。春日井での気楽なグループでの登拝、奈良市の御嶽教の創立、木曾御嶽本教(地元御嶽神社を中心に)の創立などによる講組の広がりをみせた。

II. 覚明さんの生涯～津田応助「覚明霊神-御岳開山」安藤直太郎「郷土文化論集」などに

地元で書かれた覚明霊神記にはほかに、河村広康「御岳とともに-覚明霊神御一代記」(1994年、覚明霊神史蹟保存会)などがあるが、吉川弘文館の人物叢書のような全国区の伝記にはなっていない。(注)今井弘「覚明一代記」(1885.7、出版地信濃国上松驛、和装本、国会図書館蔵)

覚明さんの人生の転機は大きく四つに分かれるとして話された。

(1)出生 … 1718年(享保3)3月3日に春日井郡牛山村皿屋敷の農夫丹羽清兵衛(清左衛門とも)の子として生まれる。確かな資料なく、地元では1719年の誕生と伝わる。8歳で農家の養子に出され、その後、新川橋辺りへ。なぜ養子に出されたかは省く。いろいろあって後、出家し、枇杷島の清音寺に徒弟となる。

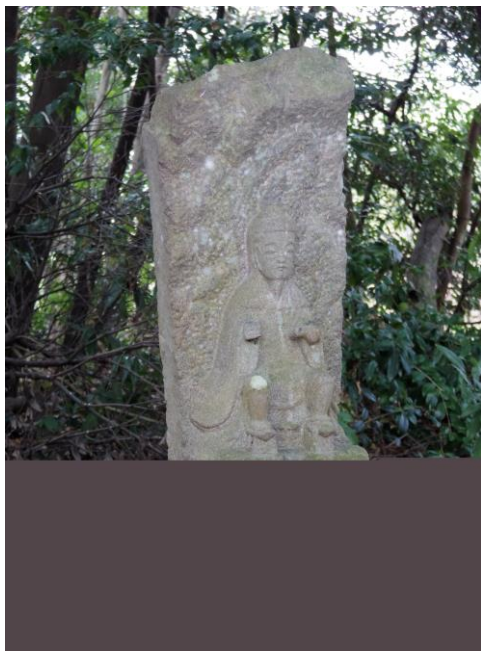
(2)濡れ衣 … 出家して7年ぐらいで新川に戻り、医師の箱持ちをした。近所の人のお世話で結婚した。ところが近所のうわさで阿弥陀堂和尚殺人事件の犯人ではないかと疑われた。半年1年たっても濡れ衣が晴れない。暮らしも夫婦関係も…苦しい事態に追い込まれた。なんとかしなければいけない。再出家して人生をやり直そうと寺に入ったものの、枇

杷島に近い。全国のどこかへ修行に出かけよう…。

(3)再出家 … 他国のどこかへと、最初は谷汲山へ、次に高野山へ、さらに西国巡礼に、結局、**四国八十八ヶ所巡礼**となった。自分で歩き、悟り、道を開く場として四国八十八ヶ所を選んだのではと思う。「春日井郡誌」によれば、第1回目の巡礼は1752年(宝暦2)だった。7回目は1766年(明和3)で、足摺岬の**38番札所の金剛福寺**を出て野宿をしていた時に白川権現が降臨し夢枕に立たれた。この**伝説場面**の描写を、河村広康氏の本によって紹介された。「深い眠りに落ちていたときに、我は白川権現なり、汝の今日までの修行まことに奇特である。

されば汝に覚明の名を与えるにより、名乗るべし。されば、濃州・信州の地に幾多の霊峰あり、…汝は終生かけ開山すべし」と**宣託**された。開山を託され、新川に戻った。四国から帰って実家に寄り別れを告げて、歩いて母(千代)の出身地田楽を経て内津峠を越え、多治見・土岐を経た道中にある**恵那山**に着き、3年かけて開山した。次に、**御嶽黒沢口**へ。修験道だけに規制していた御領地で、鷹狩りのための御領林には一切入らせなかった。庄屋に協力を請願したが、首をはねられるぞと強く断られた。地道に信頼を勝ち取るための活動を続けことにした。薬草、開拓手順の指導など農民の生活に直結することをした。10年後もう一度庄屋と山村代官に請願したが変わらなかった。番所に通告され、逮捕され牢に入れられた。一方で、理解者も増える中で、**覚明は強行手段**に出た。

(4)木曾御嶽入りの強行 … 1785年(天明5)6月無許可のまま無精進の地元住民8人を連れ



登拝を強行した。これが評判になり、続いて登る人が膨らんだ。同月中尾張の信者38人が登山。同月末80人余りが登る。藩も取締りが徹底できないほどに神聖な山に登りたい人が沢山いた。最後は誰も連れず一人で登った。1786年6月のこと。**9合目の二の池の辺で亡くなった**。69歳だった。この後、周辺の10人の庄屋が軽潔斎願書を出す。代官村山氏が**正式に軽精進登山を認めた**のは1792年1月。信仰の全国普及の端緒となった。福島・黒沢の両村は経済的な潤いを受けることとなった。覚明の大願は成就された。

Ⅲ. 御嶽講の活動～春日井市内に47ヶ所を確認、関田誕生講は今も毎月行事。覚明の死は誕生地の牛山にも50年ぐらい伝わらなかった。戒

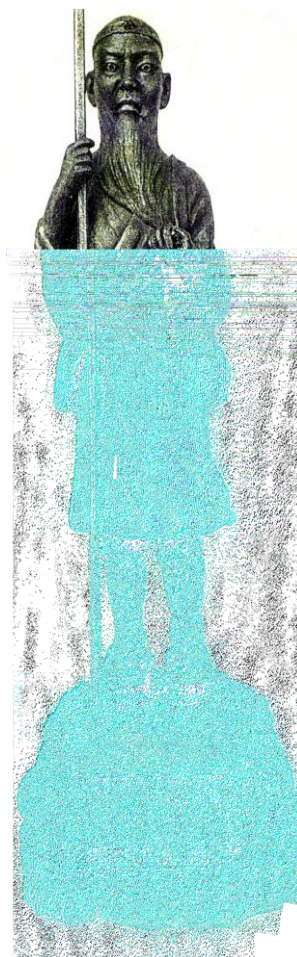
名もはっきりしない。しかし、市内各地に碑が建ち、明治・大正・昭和まで講が盛んな所となった。尾張には5つの講ができた。**覚明系**の「誕生講」(春日井)「出生講」(清洲)、**普寛系**の「福寿講」(岩倉)「宮丸講」(熱田)「心願講」(日進)の**五大講**だ。本山に関係なく講名の自由が大原則になった。「誕生講」は牛山・関田・前並・高山・松河戸で今も存続。玉

野・下原では「日之出講」、如意申新田・稲口では「福寿講」、勝川では「出生講」が存続している。

最後に、春日井の宗教人には、覚明のほかに天台座主 242 世・245 世の吉田源應(げんおう、1849-1927)がいる。稲口の出で、龍泉寺や密蔵院に入って修行してトップの座についた。41 歳で四天王寺住職になり、天台座主に就いたのは 55 歳の時だった。天台宗中興の祖と呼ばれている偉人だ。四天王寺中学高校の創設者でもある。覚明は、自分で修行し、自分で納得することを、時間をかけてやりぬいた方だ。決断し、決行には苦勞することが大事だと思った。今回、20 年ぶりに覚明についてまとめ直した。(記録：塚田 忠雄)

OPINION

庶民信仰の道を拓いた「信念と決断の人 覚明行者」



中日新聞 (2014.12.27) 記事

覚明靈神像 (覚明本尊) 「御嶽とともに」より

〈事務局〉「ふるさと春日井学」研究フォーラム 会長 河地 清

TEL/FAX 0568-82-5973 メール: kawachi-k@mb.ccnw.ne.jp

かすがい市民活動情報サイト: <http://kasugai.genki365.net/>

ふるさと春日井学 検 索 